

タイトル： 父と子 金物屋さん編

①



(2013年8月22日 マラウイ、M'bang'ombe、須藤 茜撮影)

・・・マラウイの KAMUZU 国際空港から自転車タクシーで1時間のところにある村の金物屋さん。学校が休みの8月は、いたるところで朝から親の仕事を手伝っている子どもを見かけます。

②



(2013年8月22日 マラウイ、M'bang'ombe、須藤 茜撮影)

お父さんの Patric さんは、この道 15 年の大ベテラン。機械を一切使わず、手作業で金物の如雨露やバケツを作っています。

③



(2013年8月22日 マラウイ、M'bang'ombe、須藤 茜撮影)

Patricさんの息子さんは小学5年生。お父さんの指示のもと、お手伝いを一生懸命します。

④



(2013年8月22日 マラウイ、M'bang'ombe、須藤 茜撮影)

「将来の夢は何ですか」、と私が息子さんに聞くと、  
「お父さんと同じ金物屋さんだよ。」と恥ずかしそうに、しかし笑顔で答えてくれました。

それを聞いて、嬉しそうな表情を見せるお父さん。(写真奥)

⑤



(2013年8月22日 マラウイ、M'bang'ombe、須藤 茜撮影)

子は、親の背中を見て育つ、と日本では昔から言われていますが、マラウイでも、その言葉を思い起こさせる風景に出会い、日本を思い出した一瞬でした。

今日も、マラウイの村で、金物屋さんの「カン、カン、カン」という音が、元気良く鳴り響くのです。

終わり